

## ～出会いと発見で地域を知ろう！～・・・ 第1回

### 1. 港南・野庭の歴史

- ①. 横浜港南の生い立ちと歴史……………1
- ②. 大規模団地「野庭」・宅地開発の歴史……………1

### 2. 下野庭から上永谷へ

- ①. 野庭神明社……………2
- ②. これぞ野庭の里! 内倉園芸店……………2
- ③. 昔日の面影を残す石仏通り、下野庭……………3
- ④. 正応寺、松風山栖林院、浄土宗……………4
- ⑤. 昔口の面影を残す下、中野庭……………4
- ⑥. 旧「下野庭口」の石仏群……………5
- ⑦. 武相国境道とその尾根筋……………6
- ⑧. 野庭町永作遺跡……………6
- ⑨. 石仏3基、野庭町171……………7
- ⑩. 馬洗川と馬洗橋……………7

### 1. 港南・野庭の歴史

#### ①. 横浜港南の生い立ちと歴史

- (1) 武蔵国と相模国の国境と、分水嶺に影響を受けた地域
- (2) 中世から近世にかけての変遷

別紙、地域特集「横浜港南の生い立ち」と「港南区歴史年表」を参照下さい。

#### ②. こうなんの里山に生まれた大規模団地「野庭」宅地開発の歴史

鎌倉時代野庭は「相模国、鎌倉郡、尺度(さかど)郷、山内荘野場」と呼ばれ、江戸時代には「鎌倉郡永野村、上野庭村、下野庭村」になり、その後昭和11年に横浜市へ合併され「横浜市港南区野庭町」となりました。

江戸時代から、宮久保(みやのくぼ)、深田から南西方向が上野庭村、北東方向が下野庭村と呼ばれていました。

「野庭の今昔」には、「その周囲は小高い山や丘に囲まれ、小山や丘は郷の低地に裾を伸ばして山あいを形作り山あいの低地は湿地の帯となり、またその端を流れ出た溝が蛇行しつつ合流して小川となっていた」と書かれています。

昭和45年当時、馬洗川沿いの天谷には民家は七軒しかなく、周りの山が高く沢の下にあったので霧が立ち込め易かった。冬には萱葺き屋根から「つらら」が沢山ぶら下がっていた。また、現在の野庭中央付近には人が全く住んでいない山奥だったと言われています。

一方横浜市は、昭和30年頃よりこの地域の大規模開発計画を立案し、地元債権者と競技を始めました、その後実務を横浜市住宅供給公社に移管しました。

昭和43年(1968)九月関係地権者(当時約40戸)の協力を得て買収を完了。同年11月野庭土地区画整理事業(地元と市、住宅供給公社の共同)がスタート、昭和47年(1972)賃貸の住宅の建設に着工、昭和47年10月から入居が開始されました。

一方住宅供給公社の分譲住宅は昭和48年2月に着工し、昭和50年(1975)3月に竣工しました。賃貸の市営住宅3,230戸、分譲住宅2,332戸、合計5,562戸に、舗等施設4棟を加えた

野庭団地事業は、昭和51年(1976)3月に完成を見ました。また、五階建市営住宅と九、十階建て公社分譲住宅の調和を図るため、地域を判然と分けることを避ける計画がなされました。野庭の中央地域を造成開発して完成した野庭団地の世帯数は約1万、人口2万3千人と港南区人口(22万3千人)の1/10以上を占める大団地となっています。

昔の野庭町の原風景は大規模開発によって、95%が消滅されたと言われており、馬洗川沿いの土地は北側に公務員宿舎を含んだ下野庭住宅地に、南側は上野庭の農業専用地域となり昔ながらの景観を保っています。

## 2. 下野庭から上永谷へ

### ①野庭神明社

祭神:天照大神・大母大明神・白旗大権現 下野庭字伊勢山。

白旗大権現は往昔村の鎮守だったが、神明社がこれに代わりました。社殿は老朽化甚だしきものでしたが野庭団地造成に当り、昭和53年(1978)市住宅供給公社負担で鉄筋コンクリート造り、近代的社殿が完成しました。世の騒音から隔絶された神明社も今は屏風のように林立する、近代的高層建築の中の一郭で近隣を見下ろす、明るい高台に移りました。近隣の山林もテニスコートや下野庭小学校の活動の場になりました。

(1)境内祭祀石仏:

①石段親柱 明治14年(1881)

②鳥居 大正10年(1921)鳥居作者名高座郡海老名村河原口の銘

③常夜灯 大正10年(1921)

④狛犬昭和53年(1978)新社殿完成を祝し神社氏子連の奉納地域の歴史を感じます。

(2)馬頭観世音:神明社前、テニスコートの入口脇に立つ、明治32年(1899)下の馬洗川支流、下野庭川沿いの道に建てられていたもので、造立者10名の記名があります。

(3)大六天:「他化自在天」とも言われ、元字大六天の山頂にありました。今グリーンテニスラブ前庭に祠と樹齢3,400年のヒイラギの古木と共に移されています。正月と節分にはお参りしています。

(4)山神社:神明社横に置いてあります。「山日待」と言って、社日の翌日1月17日、講の当番の家に集まり、山の神の御祀りをすると共に、ご馳走を頂きながら車賃や道普請薪切り賃など1年の取り決めをしました。また、社日待とは1月16日以前に山へ入ると山の神の怒りを受けることから講中は16日当番の家へ出かける時は米やお神酒銭を持ち寄って酒食を共にし、楽しみがありました。明社前の古道を下野庭側へ下りて行くと右手下に気付かれずヒソリ立つ石仏二基があります。

①庚申塔(道標)笠付き青面金剛像浮彫三猿天明7年(1787)、右面に左ぐみやうじ道、左面に右かま道とあり、この近くの道に立っていたことがうかがえます。

②堅牢地神(文字)塔 明治7年(1874)、造立者10名の名があります。



①庚申塔・道標



②堅牢地神塔

### ②これぞ野庭の里!! 内倉園芸店 自宅 野庭町89 農場・店舗462 他

(1)上記馬頭観世音塔祠の通りを奥へ進んで行くと右側に温室が並んで見られます。

苗圃温室や事務所・物置・農機具・機械置き場等が散在しています。この広い道を先へ進んで行くと関

東財務局の公務員住宅マンション群になります。



(内倉園芸店案内)

左折し、機械の入る農道を上へ進むと道は二手に分かれ、直進すると小道を抜け住宅地へ出ます。左折すると内倉園芸店の温室が建ち並ぶ大規模農園が展開します。

温室は各棟によって栽培花卉がそれぞれです。

## (2)農場の位置と環境

この農園は下野庭の東側分水嶺の野庭町丘陵上で、標高 75m です。

東側は日野町日野ヶ丘住宅 800 台番地へ続き、ここに降った雨は日野川・大岡川へ、そして桜木町の東京湾へ流れる地域で、「武蔵国」です。

また、西側内倉農園の下野庭の方へ降った雨は馬洗川・永谷・柏尾川へ流れ、相模湾、江ノ島の所へ流れる境川で、「相模国」になります。

従ってこのゴルフセンターと温室の内倉園芸農場は、武相国境上の丘陵に当たります。

「武相国境の道」と言える道は現在ゴルフセンターのネット下の東側、日野町住宅街のはずれ西側脇に住宅地生活道路があるのみで、古い「鎌倉古道」は開発により失われました。

武相国境の境を形成する国境丘陵は南へ延びて、関東財務局港南台公務員住宅～野庭中央公園・関城跡～野庭小学校～横浜市営野庭住宅団地～迎陽燧道上、丘陵標高 59m～日野表町公園～目野 5・6 丁目野村港南台～七曲西側 74m の高所から港南台高校・円海山 153m へと続きます。

## ③昔日の面影を残す石仏通り 下野庭

(1)港南図書館から元野庭車庫近くへ抜けるこの通りは大規模開発の嵐は少なく、山を崩した平坦な宅地造成と違い谷戸が狭く、開発が阻まれ、自然が残っています。

上永谷駅が近い事も有り、最近急速に丘陵斜面を掘削しての開発の嵐が押し寄せ、開発ラッシュが押寄せています。

この谷戸の石仏は馬洗橋の際から始まり神明社までの間、数箇所あります。この近くにも 3 箇所もあります、旧農家、名主など旧家があり、古文書など保存されています。



(旧名主家 織茂邸南門)

古文書には「上・下野庭の検地帳」・「お仕置五人組帳」・「下野庭村絵図」・「高札」他多数あります。一澤万三著「野庭の今昔」に資料が示されています。野庭の古い歴史を知る上で貴重な史料です。

旧家も元名主宮家、織茂大策さん他何軒かあります。開発前までは農村地帯で稲作やシイタケ栽培が奥深い山奥で行われていました。

(2)旧道野庭から吉原方面への旧道は正応寺の標柱の斜め前、織茂宅脇から丘陵の尾根へ登って行き、峠を越えバス停永作へ通ずる小道があります。

もう一本標柱の左側内倉家、脇からの道を登ると、左は住宅、右側は林になっています。

すると右手に大きな下野庭公園があります。日野側には大きなマンションが建っています。

公園は幼児や母親たちの遊びとコミュニケーションの場になっています。左手は標高70mのこの尾根最高峰の見晴らしの良い所に駐車場があり、眺望抜群です。

この尾根が日野から芹が谷、別所の境界、汐見台・平戸線のバス停水道橋の道の方へ続く武相国境になっている野庭・永作峠(野庭町29)辺り一帯にかつて開発前は縄文・弥生時代の土器片散布してい

ました。以前 1990 年当時、畑地より表面採取した土器片は縄文式土器のものでした。ここを通る道は、山道状の細い武相国境稜線道は中野庭から稜線を越え、永作バス停の所へ下り、北東方向へ上り渡戸へ通ずる道です。現在は下野庭・永作公園になり、畑は駐車場になりました。また一段と高い東側の雑木林が伐採され、そこも貸し菜園になりました。旧農家の生きるための土地経営の一策です。この高いところの標高は75.8mです。

#### ④正応寺 松風山栖林院 浄土宗

##### (1)開山 真蓮社榮譽冷吟 寛永 11 年寂(1635)

下野庭町字坂口 日下村松本 正覚寺末寺、縁起旧記に、本堂再起に際し、安永 6 年(1778)より、5 力年間地頭所よりお蔵米十石ずつ下賜せられたとあり、延宝 6 年(1679)成瀬五左衛門検地の時、田9畝20歩、畑9畝8歩除地となる、記録があり、江戸時代初期の開山、開基と知ることが出来ます。

- ①本尊:阿弥陀如来木坐像、脇仏観音、勢至菩薩他に十二神将(旧薬師堂持)、堂宇 明治 20 年建立の本堂・庫裏は関東大震災で倒壊、仮本堂・庫裏で50年間経過、現在の本堂・庫裏は昭和 49 年鉄筋コンクリート造りで新築落慶したものです。
- ②板碑:嘉暦 4 年(1329 年) 碑面中央に阿弥陀如来像が蓮弁座に座り、記年の左右には三輪差しの花瓶が刻まれ、基部は台石に挿入するようになっています。区内でも代表的なもので緑泥片岩の秩父石です。板碑は俗称で正しくは石塔婆又は青石塔婆とも言い鎌倉時代から室町時代に追善供養や逆修供養(生前)のために造立されました。
- ③石段親柱,文化 5 年(1808) ④供養塔,文政 7 年(1824) 南無阿弥陀仏 ⑤六地像,昭和 54 年(1979)
- ⑥五輪塔残欠群,寺院の直ぐ背後の横々高速道路工事や丸山台住宅地造成時畑の脇などにあった五輪塔の残欠が墓地に祀られています。
- ⑦セツ塚や十三塚 一方、裏山丘陵の坂口にあったこれら塚などは横々工事によって消滅してしまいました。



(内倉農園より眺めた正応寺)



(横浜市有形文化財板碑嘉暦 4 年 1326)

##### (2)野庭学校

明治新政府による新学制が明治 5 年布かれ、上・下野庭ではこの正応寺を仮校舎として野庭学校が設置されました。読み・書き・そろばんの寺子屋式の学校でした。

その後、10 年には上野庭の字前田に移り、更に明治 22 年永谷学校に統合され永谷の地に移りました。

#### ⑤昔口の面影を残す下野庭

(1)この通りは大規模開発が少なく、山を崩した平坦な宅地造成と違い谷戸が狭く、まだ自然が残っています。しかし、上永谷駅が近くに設置され最近開発が進んでいます。

下野庭の石仏は馬洗橋の際か始まり神明社までの間、数箇所あり、この近くにも 3 箇所もあります。

名主、織茂大策家の邸宅があり、古文書など保存されています。古文書には「上・下野庭の検地帳」「五人組前書」「御仕置五人組帳」「下野庭村絵図」「高札」他、数多くありますが、今は横浜市歴史博物館に保管されています。史料としては一澤万三著「野庭の今昔」に記述されています。野庭の古い歴史を知る上で貴重な地域であり史料となっています。

旧家、織茂大策家他、旧家が何軒かあります。開発前までは農村地帯で稲作やシイタケ栽培が奥深い

山里で行われていました。

この織茂邸「長屋門」脇を通って上って行くと、尾根上、武相国境上に織茂家経営「港南台ゴルフセンター」があり、遠くからもその存在がわかります。

ここが武蔵と相を分けた武相国境の尾根です。辺りは原生林や竹林が生い茂り、往年の野庭の里を偲ばせます。

## (2)下野庭より吉原の下野庭口へ通じる「野庭道」

正応寺の標柱より、やや北側の大きな家構えの織茂丈山邸、野庭町216当家の「長屋門」とそれに続く「薬医門」の構え、本屋と邸内の植木のたたずまいから名主屋敷の面影を残しています。

野庭町 203 脇の道を丘陵の尾根へ登って行くと左手に旧家、内倉家と庭園、見事な植木園地に続く薬研掘の峠道を過ぎ左手に上ると左手下野庭公園、右手に元日本鋼管日野団地の高層 19 棟が林立する大団地がありましたが、後に三井不動産管理のマンション群に変遷してしまいました。かつて戦後の日本の鉄鋼業界筆頭の大会社日本鋼管は新日鉄会社になり、主力工場が房総半島君津工場へ移転、この団地も当地でのその任務を終わり引き上げました。跡地には三井不動産系マンションが建設され、上岡東の日本航空社宅と同様、大きな時代の流れを感じます。



(内倉農園脇武相国境尾根・右手が織茂ゴルフ場)

## ⑥旧「下野庭口」の石仏群 (日野7丁目光明寺へ遷座)

峠を越えた三叉路を右に下るとバス停吉原小学校前や旧大北道の日野 4 丁目 4 番の角地へ出ます。日野・吉原側では、今来たこの道を「下野庭口」と呼び、従来から吉原と下野庭を結ぶ主要公道となっていました。その証としてここ、日野 4 丁目 - 12 佐藤家宅敷地・他に庚申塔や青面金剛塔「諏訪園」碑が建っていました。しかし、今は住宅区画整理や道路建設により大北道の「光明寺」墓地入口へ、遷座されています。



(青面金剛像浮彫三猿)

- ①庚申塔 舟形光背 青面金剛像浮彫三猿 安永 3 年(1774) 台座に 8 名の名と「正福寺」の刻字、大北道改修以前、ここが旧道でした。
- ②庚申塔 青面金剛文字塔(板状自然石塔)に弘化 2 年(1845)の年号、台座には吉原村大北根講中、9 名の名と「光明寺」の寺名があります
- ③「諏訪園」碑 同所日野 4-13 上へ上る石段の前に建っていました。敷地寄付者 3 名、発起人 23 名の名があります。

「新編武蔵」に「諏訪社」が吉原村大北に存在の記載があり、同社が春日神社に合併されたので諏訪社の存在を記すため、この元地に「諏訪園碑」を建てましたがその後の再開発によりこの碑も移動を余儀なくされ、行き先は現在地の光明寺墓地入口に祀られています。

## ⑦武相国境道とその尾根筋

(1)下野庭公蘭を通ると、下野庭 89 の内倉園芸店(経営内倉好雄宅)脇から上ってきた道、左は住宅、右側は林を過ぎ、今来た下野庭公園の所で合流します。

公園は幼児や母親たちの遊びとコミュニケーションの場ともなっています。

左手は標高 75,8m のこの尾根最高峰の見晴らしの良い空き地と駐車場があり眺望抜群です。この尾根が日野から芹が谷、別所の境界、汐見台・平戸線のバス停水道橋・芹が谷・境木地蔵の権太坂へ通ずる分水嶺となり、国境を分けている**武相国境の道**です。

当時、ここを通る道は細い山道で中野庭から稜線を越え永作バス停の所へ下り、北東方向へ上り渡戸へ通ずる道です。雑木林も現在は下野庭・永作児童公園になり、畑は駐車場になり、また一段と高い東側の山は大自然溢れる見事な雑木林がありました。しかし、伐採され、そこは「横浜市民采園」に貸し出されました。旧農家の土地経営の一策でしょう。

(2)ここ武相国境尾根筋の市民菜園の北隣、野庭町 39 の尾上家・福島家の民家の敷地は終戦後昭和 40 年代まで両家は「養鶏場」を経営していました。当港南区には数多く村在した養鶏場の中の一つでした。

## ⑧野庭町永作遺跡 港南区日野町 3-10 付近

(1)二度にわたる発掘調査が行われ、初回調査は 1989 年、環状 2 号線工事に伴い、1棟の掘立柱建物跡が発掘されました。2度目の調査は宅地造成に伴う前調査で 1995 年行い、前回の道路工事にともなう広い範囲の調査を行いました。

調査の結果、縄文時代前期「諸磯期」の竪穴住居跡 1 軒、集石遺構一か所、土坑(穴)4基うち落とし穴 2基、弥生時代後期の竪穴物跡1軒、土坑5基が発掘されました。



(野庭永作遺跡八作遺跡調査公開)

弥生時代後期に属する竪穴住居址のうち 2 軒は長光寺原式土器を出土する住居でした。この朝功寺原式時をともなう住居は横浜市北部では見られますが南部では数遺跡しか確認されていません。

先の調査で検出された掘立柱建物跡は跡で見つかったものと同時期の奈良・平安期のものと確認されました。

(2)火の見櫓 元名主、織茂大策家前道路脇正応寺入口 野庭 230

下野庭町内会港南消防団第 5 分団第 2 班器具置場があり、傍らに丸いコンクリート柱に鉄製の梯子が掛かり、頂部に丸い見張り台、銅製の半鐘が架かり、当町内会のこの施設は下野庭の里にふさわしい姿を今に残し使命を果たしているようです。

戦時中は火事ならぬ B29 爆撃機の警戒警報空襲警報を住民に知らせたことでしょう。

他にも、日野中央 2-8 の春日神社下の鎌倉街道沿いに建っています。

(3)「馬頭観音塔祠」 野庭町 223 竹森繁登氏宅前

織茂重雄家宅を左奥へ入ると竹森邸の壁下に小さな祠があります。祠の正面には鉄の馬蹄が飾られ、やや赤みがかかった大理石材で、碑面正面に「馬頭観世音塔」の刻字と造立年昭和 17 年(1942)と造立者名織茂重雄の名があります。

立派な祠の中に丁寧に祀られているが、窮屈で側・背面は見られません。



(馬頭観音塔祠)

⑨石仏3基 野庭町 171 に 2 基・ 223 に1基 都合3基

港南図書館から僅か先進んだ左手は上る道の分岐点右側角にあり、2基建っています。



(①堅牢地神塔)



(②庚申塔)



(③福寿地蔵)

①堅牢地神塔 側面には村中安全 五穀豊穡 11 名の造立者氏名 下野庭講中

明治 13 年 (1880) 「稲の穂を持って来た神様」・「農業の神様」・春に来て秋に帰る「作神様」と言われ、春分・秋分に近い戊(つちのえ)の日を「社日」と言いお祀りし、この日は畑や山に入ってはいけない日になっています。

②庚申塔 宝永元年 (1704)堅牢地神塔の傍に立っています。

③地蔵菩薩像(福寿地蔵)祠堂

上述 ②石仏の僅か右手の櫓の巨木の下小さな祠内にまだ新しい地蔵尊です。

⑩馬洗川と馬洗橋

馬洗川は、野庭より永谷駅近くの状2号線沿いに流れ来て、永谷川・柏尾川となり江島・相模湾に流れています。この川沿いを鎌倉古道が通り、北条政子がこの川で馬を洗ったことから「馬洗川」と名付けられたと言われ、ここに架かっている橋を「馬洗橋」と言います。

この辺りは永谷と野庭の境に当たり、「鎌倉下の道」と「鎌倉中の道」や丸山台からの道と、下野庭への交差点に当たる交通の要所です。また鎌倉外境の鮎(いたち)川との中継点として、格好の憩いの場所でした。

尼将軍、北条政子の伝説には馬洗川以外にも、源氏の菩提寺「弘明寺」へ亡き頼朝の供に赴いた道として、上野庭にある地名「政所」(まんどころ)・井土ヶ谷乗蓮寺に政子自身が彫ったと言われる尼将軍の木像・「化粧の井戸」など残されています。

現在、この馬洗橋周辺は環状 2 号線が整備され、橋の位置も変わっています。

歴史的には昭和 36 年頃は高架歩道橋のやや上流に瀧があり、その滝壺辺りの小淵へ樹林中を降りた所に格好の水場がありました。

今はその川も人工のコンクリート護岸となり降り口も個人所有地となり、塞がれています。馬洗橋は昭4

和年(1929)伊勢原線開通の時、架けられたコンクリートの橋がありましたが昔の位置とも変わりました。今はこの位置に馬洗川に関わる説明板が立てられています。

- 馬洗川の水源は野庭町西南隅の三谷町公園辺りより流下する本流と、丸山川・下野庭からの支流を合わせ、馬洗橋までを言い、河畔は「せせらぎ緑道」が整備されています。

また馬洗い橋付近から天満宮・貞昌院境内の前を流れているせせらぎがあります、

この辺りの流れがもっと深くえぐれていた、元の永谷川の河川の処でした。またこのせせらぎは、バス停日限地蔵入口の所で、今の永谷川に合流します。

この永谷川は「永谷・柏尾川」と呼称され、戸塚区内の幾つかの支流を合わせて「柏尾川」となり、最後は「境川」となって江の島近くの相模湾へ流れ込みます。

## 参考

### ※大正初期の、鎌倉郡永野村 俯瞰図(ふかんず)



#### 参考文献

- ・野庭をあげよう講座 2010、2011資料 (馬場久雄)
- ・横浜市史
- ・野庭の今昔(常盤台万三)
- ・永野郷土史(馬場久雄既稿執筆分)
- ・野庭の今昔(常盤台万三)
- ・横浜市史新編武蔵風土記
- ・港南の歴史
- ・歴史散歩辞典
- ・神奈川の歴史百話
- ・お母さんが伝えるふるさと下野庭
- ・こうなんの歴史アルバム1. 2
- ・横浜市港南区 HP
- ・永野郷土史
- ・港南の歴史と分化

以上